

2025年秋

APAQG クアラルンプール会議について

1 はじめに

APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group: アジア太平洋地域航空宇宙品質グループ) はIAQG (International Aerospace Quality Group: 国際航空宇宙品質グループ) 傘下の地域組織であり、JAQG (Japanese Aerospace Quality Group: 日本航空宇宙品質センター) はその中心メンバーとして、IAQGの活動戦略目標に対応したAPAQG内の活動方針決定や、IAQGへのAPAQG/JAQGの意見提言においてリーダーシップを発揮している。

2025年9月10日～12日にかけてマレーシア国クアラルンプールで、定期APAQG秋会議を開催した。今回は、会議に先立つ9月9日に、現地マレーシアの航空宇宙企業等を対象に、

IAQG/APAQGの活動内容紹介やICOT (International Certification Oversight Team) スキームの説明、IAQGメンバーシップおよびJAQGの活動内容などについて説明を行い、IAQG活動への参画を呼びかけた。

マレーシアのクアラルンプール国際空港までは、成田空港からの直行便で7時間30分の昼間フライトで、乱気流等もなく快適であった。開催場所となったのはクアラルンプール国際空港から約50km、車で1時間程度の距離にある繁華街ブキッピンタン地区に位置するPullman Kuala Lumpur City Centreホテルである。

日本出発時は9月とはいえ、非常に蒸し暑く不快であったが、クアラルンプールは湿度も若干低く、過ごしやすい気候であった。以下、今回の会議内容について報告する。



IAQG構成図



Pullman Kuala Lumpur City Center Hotel

2 会議の概要

2.1 APAQGクアラルンプール会議

(1) APAQGクアラルンプール会議の参加国

及び参加組織

APAQGクアラルンプール会議には、アジア・太平洋地域の航空宇宙関係40組織が参加した。

番号	国名	メンバー資格	会社名	出欠	備考
1	日本	Full Member	三菱重工業株式会社	出	
2	日本	Full Member	川崎重工業株式会社	出	
3	日本	Full Member	株式会社IHI	出	
4	日本	Full Member	株式会社 SUBARU	出	
5	日本	Associate Member	日本電気株式会社	出	
6	日本	Associate Member	三菱電機株式会社	出	
7	日本	Associate Member	株式会社IHIエアロスペース	出	
8	日本	Secretariat	日本航空宇宙工業会 (SJAC)	出	
9	中国	Associate Member	AECC (Aero Engine Corporation of China)	出	
10	中国	Full Member	AVIC (Aviation Industry Corporation of China)	出	
11	中国	Full Member	COMAC (Commercial Aircraft Corporation of China)	出	
12	中国	Affiliate Member	Honeywell China	出	
13	中国	Affiliate Member	Boeing Tenjin	オンライン	
14	韓国	Full Member	KAI (Korea Aerospace Industries)	出	
15	韓国	Associate Member	KAL (Korean Air Aerospace Business Division)	出	

番号	国名	メンバー資格	会社名	出欠	備考
16	韓国	Associate Member	LIG Nex1	出	
17	韓国	Affiliate Member	Hanwha Systems	出	
18	韓国	Affiliate Member	KAIA (Korea Aerospace Industries Association)	出	
19	韓国	Associate Member	Hanwha Aerospace	オンライン	
20	シンガポール	Affiliate Member	UTC (United Technologies Corporation)	出	
21	シンガポール	Affiliate Member	AAIS (Association of Aerospace Industries (Singapore))	出	
22	シンガポール	Affiliate Member	Thales Solutions Asia Pte Ltd	出	
23	シンガポール	Associate Member	Liebherr-Singapore Pte Ltd	オンライン	
24	インド	Affiliate Member	Bharat Forge	出	
25	インド	Affiliate Member	Mahindra Aerostructures Pvt Ltd.	出	
26	インド	Affiliate Member	Dynamic Technologies Limited	オンライン	
27	インド	Associate Member	TATA Advanced Systems Limited	オンライン	
28	インド	Affiliate Member	KUN Aerospace	オンライン	
29	インド	Associate Member	HAL (Hindustan Aeronautics Limited)	オンライン	
30	インド	Affiliate Member	MOOG INDIA TECHNOLOGY CENTER PVT LTD	オンライン	
31	インド	Affiliate Member	Expleo Technologies India Pvt Ltd	オンライン	
32	インド	Affiliate Member	SLN Technologies Pvt. Ltd	オンライン	
33	インド	Affiliate Member	Airbus India	欠席	
34	インド	Affiliate Member	Ankit Fasteners	欠席	
35	インド	ゲスト	NABCB (インドのAB)	オンライン	
36	インドネシア	Affiliate Member	GMF AeroAsia	出	
37	インドネシア	Associate Member	IAe (Indonesian Aerospace)	オンライン	
38	台湾	Associate Member	AIDC (Aerospace Industrial Development Corp.)	出	
39	タイ	Affiliate Member	AAR Component Services (Thailand) Ltd.	欠席	
40	フィリピン	Affiliate Member	Moog Controls Corporation	欠席	
41	フィリピン	Sector Member	Collins Aerospace	欠席	
42	マレーシア	Affiliate Member	PECCA Aviation Group	出	新メンバー
43	マレーシア	ローカルホスト	NAICO (National Aerospace Industry Corporation)	出	
44	マレーシア	ローカルホスト	MAIA (Malaysia Aerospace Industry Association)	出	
45	マレーシア	ゲスト	Dviation Group	出	

出席（オンライン含む） 40

(2) 評議会における承認及び決定事項

以下のとおりである。

- ・ 議事録：第43回APAQGジャカルタ会議議事録が承認された。
- ・ 会計報告：2026年予算申請が承認された。
- ・ IAQG 賛助会員：PECCA Aviation Services が新規IAQG賛助会員として承認された。
- ・ 2026年春季セクターミーティング開催地：2026年3月10～12日に豪州メルボルンで開催される。

(3) 評議会（Council Meeting）概要

評議会では、APAQGセクター・リーダー

の上原氏の開会宣言ののち、APAQGセクター・サブリーダーの陶山氏の進行により実施された。アジェンダは定例通り、投票メンバーの確認、前回議事録の確認、APAQG内の各グループ活動状況の報告などが行われた。項目ごとの詳細は以下に示す。

(4) 評議会以外の活動

評議会に先立ち、APAQG SF（Space Forum）会議、COT（Certification Oversight Team）チーム会議、Early Career Project会議が開催され、それぞれの会議の概要も評議会でも報告された。



評議会の様子



評議会後の集合写真（APAQGメンバー）

2.2 評議会の概要

(1) 開会

APAQG クアラルンプール会議は、APAQG セクター・リーダー 上原 美基 氏（川崎重工業株式会社）の開会宣言をもって開始された。

以降、APAQGセクター・サブリーダー 陶山氏（株式会社IHI）の進行により会議が開催された。



上原セクター・リーダー（川崎重工業株式会社）



陶山セクター・サブリーダー（株式会社IHI）

(a) IAQG EC/OPC (Executive Committee/ Operation Council) 活動報告 (上原 美基 APAQGセクター・リーダー (川崎重工業株式会社))

毎週開催でIAQG全体方針を議論するECの主要トピックとして、新規格体系（IA）への移行や翻訳作業準備の状況、IAQGブランド戦略及び認証データベースOASISの最新情報を報告した。また、月例開催でVoting

MemberへIAQG活動状況を共有するOPCの主要トピックとして、Operational PerformanceやAIMM（Aerospace Improvement Maturity Model）の新しいWorking Group設立を報告した。最後に、2025年のIAQG目標に対する進捗状況、並びにAPAQGの注力ポイントの達成状況を説明し、さらなる積極的な活動参加を依頼した。

(b) OMSおよびAPAQG Charter and Procedure報告

(城福 隆司 APAQG事務局 (SJAC))

IAQG内の組織変更があり、従来のOMS（Operation Management System）チームとPerformanceチームが統合され、Operational Performanceチームが編成された。Operational PerformanceチームのAPAQG代表は株式会社IHIの池崎氏であるが、引き続き城福がOperational Performanceチーム内で従来のOMSチームの役割を引き継いでいるため、APAQG会議ではOMS部分についてAPAQG Charter and Procedureに含めて報告することとした。

具体的にはIAQGのProcedure、APAQGのCharterおよびProcedureの最新状況に関する報告と併せてIAQG Procedureの変更部分について、およびAPAQGの文書保管場所の変更について説明した。



城福（SJAC/APAQG事務局）

(c) Communication報告

(服部 明子 SJAC/APAQG事務局)



服部氏 (SJAC/APAQG事務局)

IAQGのブランド戦略について説明した。従来のセクター名、AAQG、APAQG、EAQGをグローバルブランドとしてIAQGを枕詞にIAQG AMERICAS、IAQG ASIA PACIFIC、IAQG EUROPEに移行することを報告し、現時点における移行のスケジュールを共有した。

また、セキュリティの観点からAPAQGの会員専用のホームページを今年の9月末にクローズし、IAQGのホームページに新たにAPAQGの会員専用のホームページが開設したことを報告した。

(d) IAQG Performance (パフォーマンス) 活動報告

(池崎 隆司 APAQG Operational Performance チームリーダー (株式会社 IHI))

IAQGの委員会等の活動評価を担っていた2つのチーム (パフォーマンスチームとオペレーティング・マネージメント・システムチーム) が、活動の効率化を目的とした合併し、新たにオペレーショナル・パフォーマンスチームが設立された。このチームのセクター・リーダーに、旧パフォーマンスチームのセクター・リーダーを務めていたJAQG池



池崎氏 (株式会社IHI)

崎が参加することが報告された。

IAQGの委員会等はその活動内容や評価指標 (Key Performance Indicator) を文書で規定することとなっており、その作成促進と、文書作成済み委員会にあっては評価の実施を、オペレーショナル・パフォーマンスチームが推進していくことが報告された。また、活動評価の一環としてパフォーマンスチームが行ってきたアンケート活動も含め、IAQGが実施するアンケート調査は今後全て本チームが担当することも併せて報告された。

(e) APAQG COT (APCOT : Asia-Pacific Certification Oversight Team) 活動報告
(小薬 正幸 IAQG COT APAQGセクター・リーダー (株式会社IHI))



小薬氏 (株式会社IHI)



APAQG COTチーム

IAQG COT (ICOT) およびAPCOTの構成、メンバーと役割、CO監査員研修への参加計画、日韓のSDLs (Sector Document Liaisons) の役割分担、今年の業界監督活動（オーバーサイト）の計画・進捗、そしてインドRMS (Regional Management Structure) のアジアセクターへの移管について報告された。今年の業界監督活動は、セクターレベルおよび日本と韓国の国レベルの両方で予定通りに進んでいる。新規格への移行要件を定めたIAQG補足規則005の草案はほぼ完成したが、規則で「T0」と定義されている移行再開日は、再開に必要な主要活動の進捗状況が不透明であるため、まだ明確には設定されていない状況であること、またインドRMS (Registration Management System) の移管に関する想定スケジュールが共有された。

(f) IAQG MRO (Maintenance, Repair and Operations) 分科会活動報告
(David Tan (IAQG MROチーム APAQG リーダー (UTC)))

9110規格執筆チームにAPAQGから2名（山本氏／株式会社IHI、佐藤氏／SJAC）が新たに加わったことが紹介された。9110認証の厳

格な適用と移行作業に関する最終決定は、2025年10月のIAQG会議で確認され、主要な展開支援文書の作成も開始される計画であることが報告された。

9100規格のマイナー改正が9110規格に与える影響についても確認され、9100のマイナー改正が外注先への品質要求とそのフローダウンに関わるものであり、9110規格としてはすぐに追従する改正は不要であると判断されたことが報告された。また、MROにおける初回プロセス評価 (FPE) の項目は、次期9110改正に先行してSCMH (Supply Chain Management Handbook) として年内に発行される予定であることも報告された。



David Tan氏 (UTC)

(g) 国際スペースフォーラム分科会
(松根 功忠 APAQG スペースフォーラム
リーダー (三菱重工業株式会社))



松根氏 (三菱重工業株式会社)

スペースフォーラムは、9100シリーズ規格への宇宙固有の品質要求の反映と宇宙分野のステークホルダーへの啓発を主たる目的として活動を行っている。

APAQGにおいてスペースフォーラムを有する組織は現状JAQGのみであり、JAQG スペースフォーラムが本会議を主導した。会議では、ホスト国マレーシアの宇宙機関であるMYSA (Malaysian Space Agency) による基調講演や、JAQGスペースフォーラムの活動報

告等を行い、活発な意見交換が行われた。

特に、更なる関係強化のためのプロモーション活動として、本年11月にフィリピンで開催予定のAPRSAF-31 (31st Asia-Pacific Regional Space Agency Forum) に向けた計画も共有した。今後もAPAQGの代表として、セクター内の宇宙業界への啓発を図るとともに活性化を推進し、当該活動をIAQGへ反映出来るよう積極的に参画していく。

(h) 規格要求分科会活動報告
(上原 美基 IAQG規格要求チーム APAQG
リーダー (川崎重工業株式会社))



上原氏 (川崎重工業株式会社)



前日に行われたAPAQGスペースフォーラム会議の様子

IAQG規格開発を管理するSMC (Standards Management Committee：規格管理委員会)の現体制及びメンバー、並びに各IAQG規格の改訂作業状況・見直しの予定を報告した。さらに、IAQG及びセクターの規格作成チームリーダーを募集中であり、積極的な応募を推奨した。

(i) 9100規格チーム活動報告

(西口 潤 9100 APAQG SDR (Sector Document Representative)
(三菱重工業株式会社))



西口氏 (三菱重工業株式会社)

IAQG 9100チームAPAQGメンバーが1名空席となっていたが、Jeffrey氏が就任したことを報告した。昨年度IAQG内で独立レビューチームが立ち上げられ、IA9100規格が正しいプロセスで改正されているかを評価が完了、IA9100設計仕様書がVotingメンバー会社によって承認され、内容が固まった。主な提案は製品品質を強化することであり、この点を踏まえ、IA9100規格改正案をチームで作成している。

現行の9100規格が長期にわたって改正されていないこと、及び米国のステークホルダーからの要請により、現行の9100規格を部分改正し、発行することがIAQGバルセロナ会議で決定。3セクター間で協議し、航空宇宙業界の課題である下請け管理を強化する改正案

とすることに決定した。IAQGバルセロナ会議で部分改正規格案を作成し、2回の投票が完了。コメントはすべてIAQG9100チームで協議され、処置案決定し、規格に反映済み。投票では一部不承認があったが（アジアセクターはなし）、丁寧に説明し、理解いただく予定であることが報告された。

並行して進めているIA9100本改正版は、IAQG9100チームで調整ドラフトが完成したと紹介された。新しい要求事項は、情報セキュリティ、強化する要求事項として、製品安全、模倣品防止、APQP等があり、8/9-9/5まで展開されたコメント募集期間に190件のコメントを受領し、まずはセクターチームでコメントレビューし、10月に開催されるIAQGワシントン会議でセクター間の調整及び協議が行われることが報告された。

部分改正は、11月頃規格案完成（発行は各国語翻訳後）、本改正は、2027年1月発行予定（ISO9001：2026は2026年11月予定）で進めている。

(j) 9150規格チーム活動報告

(Jeffrey Ho氏 IAQG 9150 チーム
(Association of Aerospace Industries
(Singapore)))



Jeffrey Ho氏
(Association of Aerospace Industries
(Singapore))

9150は認証可能な規格となることが説明された。アメリカの主要ステークホルダーは全てのサプライヤーがOASISに登録されることを望んでいる。9150規格に認証されてもISO 9001認証は自動的に得られないものの、規格の更新のメリットがあることが説明された。

ISO規格の改正遅延の影響を避けるため、ISO9001の枠組みには基づかないことが説明された。

今後数ヶ月でさらに情報が提供され、2026年には調整ドラフトがリリースされる予定であることが報告された。

(k) PSCI製品及びサプライチェーン改善分科会活動報告

(Zuozheng Lou氏 IAQG PSCIチーム
APAQGリーダー (COMAC社))



Zuozheng Lou氏 (COMAC社)

SCMH (Supply Chain Management Handbook) の活動状況が報告された。グローバル PSCI (Production and Supply Chain Improvement) チームとAPAQG PSCIチームの両方において、リーダーシップの変更が発表された。

SCMHの開発状況について報告された。

- 前回の総会以降、7つの新規または改訂されたSCMHトピックが発行された。
- 8つのSCMHトピックが開発中であり、

そのうち4つは既にPSCI承認プロセスにある。

- 9110、9131、9138、および9145の規格を支援するために、4つのトピックも開発されている。
- 4つのSCMH作業プロジェクトが、まもなく「執筆者募集 (call for authors)」を開始する予定。

(l) 各国／地域のステータス報告

評議会で報告された国／地域のステータスは以下の通りである。

ア 韓国

KAQG代表のMr. Kim氏より、KAQGの活動状況が報告された。KAQGは2つの委員会と2つのワーキンググループで構成されており、KRMC (Korea Registrar Management Committee) はJRMC (Japan Registrar Management Committee) と連携して監査結果を報告している。KS Q 9100の監査コンプライアンスは2025年1月以降KAQGプラットフォームに統合されており、KSPC (Korean Special Process Certification) ガバナンスが運用されている。また、8月にはシンポジウムが成功裏に開催され、10月には航空宇宙・防衛産業の主要イベントであるADEXが予定されていることが告知された。さらに、韓国空軍自体が9110認証を取得していることに触れ、韓国での9110認証推進に関するヒントを求める発言があった。

イ 中国

Jinfeng Geng氏 (AVIC社) より、CAQGの活動状況が報告された。CAQGはステークホルダーとの関係、組織構造 (評議会メンバー15名を含む75名のメンバー)、および安全保障活動について報告した。安全保障活動には、IAQGおよびNadcap会議へのオンライン

参加、8月22日のミーティング（評議会とディフェンスミーティングで構成）の開催などが含まれている。

ウ 日本

オンライン参加のJAQG幹事長（高橋JAQG幹事長（株式会社SUBARU））より、JAQGの活動として以下が報告された。

- ・ 前回のAPAQGインドネシア会議以後の、戦略検討委員会や幹事会等の開催状況
- ・ JAQGの構成メンバーの変更点や、日本国内の9100シリーズの認証数の変化
- ・ 活動全般として、JAQGは、IAQGやAPAQG活動に積極的に取り組み、また、IAQGからのフィードバックを日本国内ステークホルダー等に展開、また、各WGの活動や、IAQG活動への貢献状況、IAQGのブランド戦略に対する対応の決定内容を共有

各WG等の主な報告点を列挙する。

- ①規格WGでは、規格の和訳に加え、AIMMでの9110に関する取り組みを進めている。
- ②SCMH WGでは、SCMHの和訳の他、ウェビナーによる 세미나を計画中である。
- ③スペースフォーラムでは、APRSAF-31の準備を進捗中である。
- ④コミュニケーショングループでは、IAQGブランド戦略に対する対応と、JAQG25周年に向けての準備を進捗中である。
- ⑤特殊工程WGでは、Audit Criteriaの和訳と、NADCAP関連の行事の計画を進めている。
- ⑥エンジン品質WGでは、AS1300のポケットガイドの和訳等を実施し、その結果をHPに掲載した。
- ⑦JAQGはIAQGのブランド戦略に則り改称

に賛成するが、改称の時期や会員に混乱を起こさせないように配慮することについて、今後の調整事項としている

エ インド

Vijay Prajapati氏（TASL社）の代役として、Mani氏よりInAQG（Indian Aerospace Quality Group）の活動について報告された。

その中で、ICOTスキームの確立、会員数が130社を超えたこと、そしてAS9100シリーズの認証数が1,418件を突破したことが強調された。

また、戦略的ワーキンググループ、ウェビナープログラム、および様々なIAQG委員会への参加についても詳細が説明された。InAQGは、2025年度と2026年度にIAQG SCMHのベストプラクティスとIAQG AIMMの条項ごとのベストプラクティスに関する認識を高めるためのウェビナーを開催する予定である。InAQGのボランティアは、IAQG SCMHプロジェクト、APAQGの若手キャリア活動、およびAIMMやパフォーマンスを含むその他の活動に積極的に参加してきたことが報告された。

インドRMCは昨年11月にEAQG COTによって承認され、2026年にはAPAQG COTへの移管を計画していることが報告された。

(m) Early Careerプロジェクト

陶山氏（株式会社IHI）より、以下の報告がなされた。

Early Careerプロジェクトは若い品質技術者へのIAQG活動の周知・浸透を図るとともにIAQG活動への参加者を増やすことを目的として開始されたもので、コロナ禍で一時中断があったが再開して活動をおこなっている。2025年は3月のジャカルタでのAPAQG会議から開始され、指導員（Mentor）の支援のもと



Early Career Project参加メンバー

5名の参加者（Trainee）が実際のIAQG活動に参加し、その内容を参加者から月1で報告してもらっている。今回のクアラルンプールのAPAQG会議でもハイブリッド形式で会議を実施し、中間報告としてこの半年間で参加したIAQG活動内容や活動を通じて得た学び、今後参加するIAQG活動について報告された。Early Careerプロジェクトを通じて参加者の中でIAQG活動への理解が進み、また重要性が認識されるようになってきている。引き続きプロジェクトを継続し、次回3月のAPAQG会議では、まとめの報告を行ってもらう予定で

ある。

なお、2026年もEarly Careerプロジェクトを実施する計画で年末にかけ2026年の参加者や指導者の募集をかけることが紹介された。

(n) 新メンバーの紹介

次章に示すプロモーションに参加していたマレーシアのPECCA Aviation Groupが会期中に新たにIAQG Affiliate Memberとして迎え入れられた。また、シンガポールのThales Solutions Asia Pte Ltdのメンバー資格の復帰が認められた。



PECCA Aviation Groupのプレゼンテーション

3 APAQG Promotion

今回、APAQG会議開催前日にAPAQG Promotion活動を実施した。マレーシアには9100認証取得組織が100社以上あるにも関わらずIAQGメンバーが1社もないため、この機会にマレーシア国内の航空機産業向けにPromotionを実施し、IAQG/APAQG活動への参加を促すことを目的として開催した。

マレーシアの政府系機関であるNAICO (National Aerospace Industry Corporation Malaysia) の協力を得て、14社からの参加者に対しAPAQGよりIAQG活動内容の説明、9100/9110の状況、ICOTスキームの説明、IAQG活動内容の紹介、IAQGメンバー資格等について説明を行った。

現地企業からはPECCA Aviation GroupおよびNAICOより活動内容の紹介があった。PECCA Aviation Groupは航空機のインテリアなどを製造している会社であり、前述した通り、会議期間中にIAQG Affiliate Memberとなった。なお、後日連絡を頂いたところによると、他にも複数のIAQG参加希望があるとのことである。

4 おわりに

4.1 若い参加者の所感

比較的参加回数の少ない若手の方に、今回の会議の感想を聞いてみたので紹介する。

- Space Forumはチームの一体感も強く、積極的に活動していると感じた。
- Early Careerプログラムは若手メンバーに様々な会議への参加機会を与えてもらえる、有意義かつありがたい活動である。今後も積極的に参加し貢献したい。

IAQG/APAQGでは若い世代への継承が課題となっており、今後も若手技術者の継続的な参加が望まれる。

4.2 筆者所感

開催地のクアラルンプールでは高層ビルが多いことに驚かされた。下の写真は有名な観光地でもある、Petronas Twin Towerと、その展望台からの景色である。この展望台は地上から370メートルの高さにあるため、他のビルが低く見えるかもしれないが、いずれも40階以上はありそうな高層ビル群である。

この地だけではなく、空港から市内中心部まで50km程の距離を高速道路で移動中も、このような高層ビルが多数見えていた。地震が



APAQG Promotion Event参加者



Petronas Twin Towerとその展望台からの風景

非常に少ない地域であることも要因であろうが、この5年の平均経済成長率が約4.5%と、順調な経済発展をしている様子が見て取れた。平均年齢も若く、20～40代の人口が増加していることが経済成長に寄与している模様である。

かつてはパーム油などの天然資源に依存していたマレーシア経済（実際、空港近くにはまだ大規模なプランテーションが残っている）であるが、近年では産業の多角化が進んでおり、航空宇宙産業の分野においては、マレーシア航空宇宙産業ブループリント2030という、2030年までにASEANで第1位の航空宇宙産業国になるという計画を挙げている。前掲の通り、マレーシア国内には9100認証取得組織が100以上存在する。これは、日本、中国、インドより少ないものの、東南アジアではMRO事業が盛んなシンガポールに次ぐ規模を誇っている。



Malaysian Aerospace Industry Blueprint 2030
(<https://static1.squarespace.com/static/61dc74c4cb0efe2330dd66b3/t/61fdd4fce6479d42cb56f/cc7/1644025105806/MalaysianAerospaceIndustryBlueprint2030v12.pdf>)

今回の会議開催にあたって、現地政府機関のNAICOおよび会場となったPullman Kuala Lumpur City Centreホテルのスタッフとは事前に何度も調整を重ねたが、彼らは英語のコミュニケーションに長けていた。マレーシアの公用語はマレー語だが、多民族・多言語国家であるため、事実上の共通語は英語になっているという事情があるようだ。英語が公用語であるインドやシンガポールからの参加メンバーもいるが、英語が堪能なマレーシアからのメンバーが増えることは、APAQGメンバー全体のレベル向上のためにも大歓迎となる。

IAQG活動にアジア太平洋地域の意見を反映させるためには、APAQG活動を活発化させ、多くのメンバーが継続的にAPAQG会議およびIAQG会議に参加し、対面で議論を重ねることにより、アジア太平洋地区における課題の抽出および解決に向けた意識の共有が不可欠である。

このためには対面会議における議論の活発化が必要であるが、過去に参加したAPAQG会議（特に50名近くが参加する総会）において、比較的受け身の参加者が多いように感じていた。いわゆる英語を母国語としない「言葉の壁」も要因の一つと考えられるところ、各国からの参加者の中にも英語が堪能な人はいることを考慮すれば、会議の進行が報告会形式となっていることも総会において積極的な発言をためらわせる要因になっていると思われる。

APAQG会議は通常3日間開催されるが、各国参加者による小グループ形式で議論を行う機会は少ないため、顔は知っていても話をしたことがない人が多いように見受けられた。そこで今回はまず2日目の夜に開催しているネットワーキングディナーの着席順をくじ引きで決めることとし、他国のメンバーと交流を図りやすい環境を導入した。後日、参加者に聞いたところ普段話をしない人と交流ができ、



Networking Dinnerの様子

好評であったことを確認できた。今後も参加者全体の気持ちを一つにするよう、より交流しやすい環境づくりを心がける所存である。

また、会議の進行も工夫し、報告会形式だけではなく、テーマを定めて小グループで議論するといったことを試してみたい。各国の品質マネジメントシステムの実務者が多数集まっている機会をとらえ、有用な知見を共有できるような場にできれば、合わせて若手参加者にとっても良い研鑽の場になると考えて

いる。

今回は2026年3月に、マレーシア同様、認証組織数は100を超えているがIAQGメンバーが存在しないオーストラリアでIAQG活動の紹介及びIAQGメンバー資格等に関する説明を目的としたAPAQG Promotionを行う予定としている。日本としては、アジア太平洋地域の活動をリードし、IAQG活動への貢献をさらに増してゆく所存である。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 城福 隆司〕